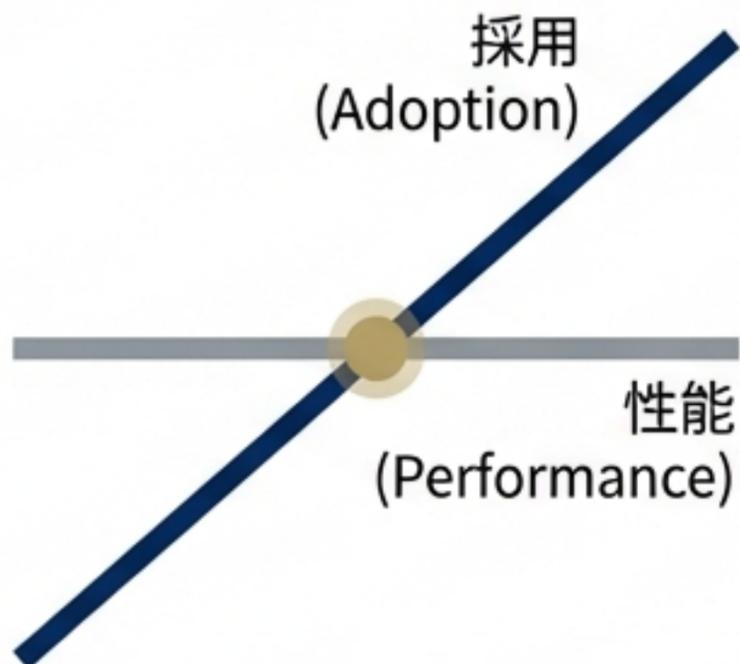


2026年 日本の国産LLM採用状況

開発動向・導入実績・政策支援・競争構造の包括的分析

性能ギャップを超えて加速する国産LLMの実装



絶対性能では海外三強に劣後するも、金融・公共・医療分野で急速に浸透。



独自の競争軸：データ主権・オンプレミス運用・業界特化・法的透明性

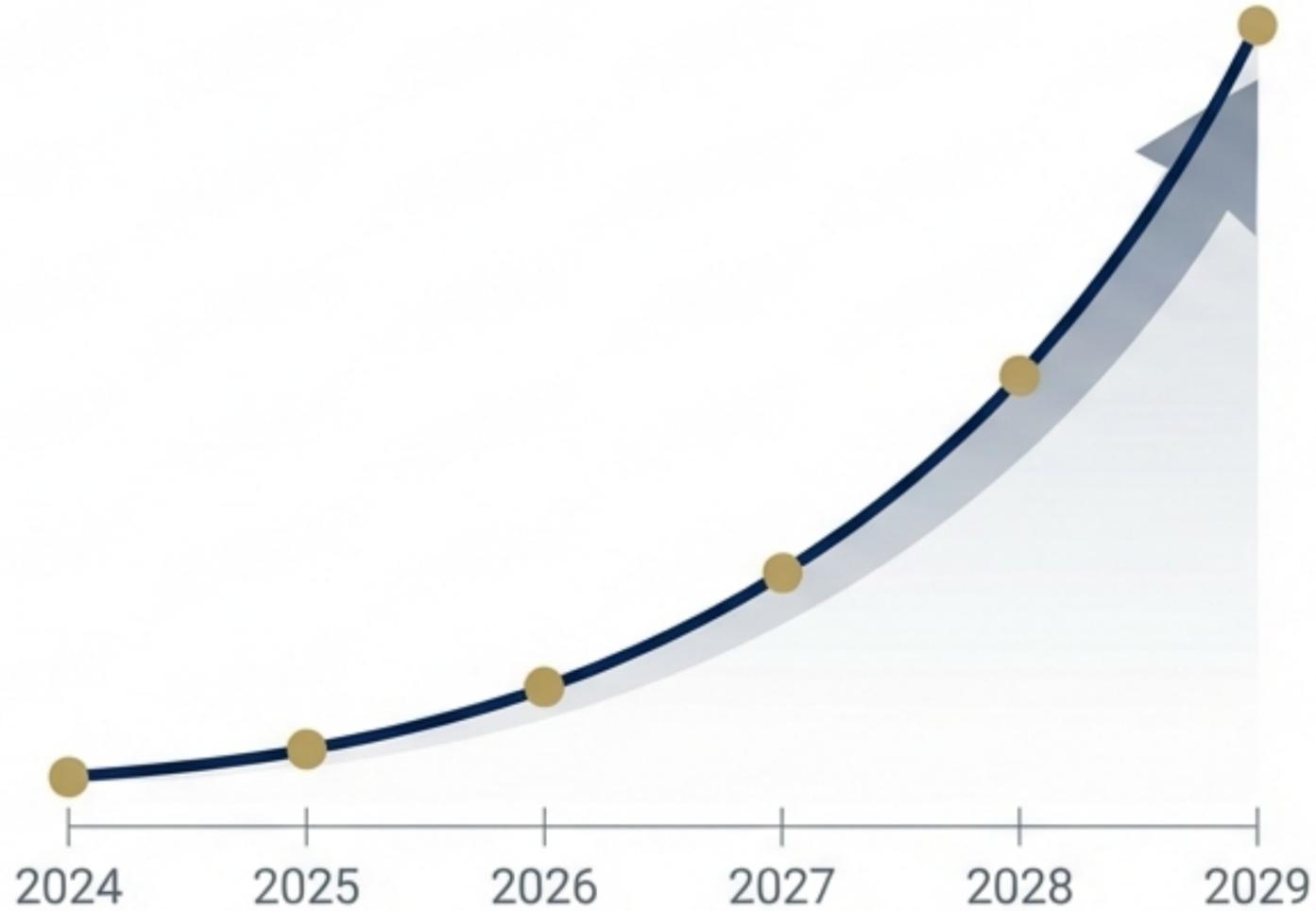


2026年は「ハイブリッド共存戦略」が日本企業の標準アプローチへ。

爆発的成長を遂げる日本の生成AI市場

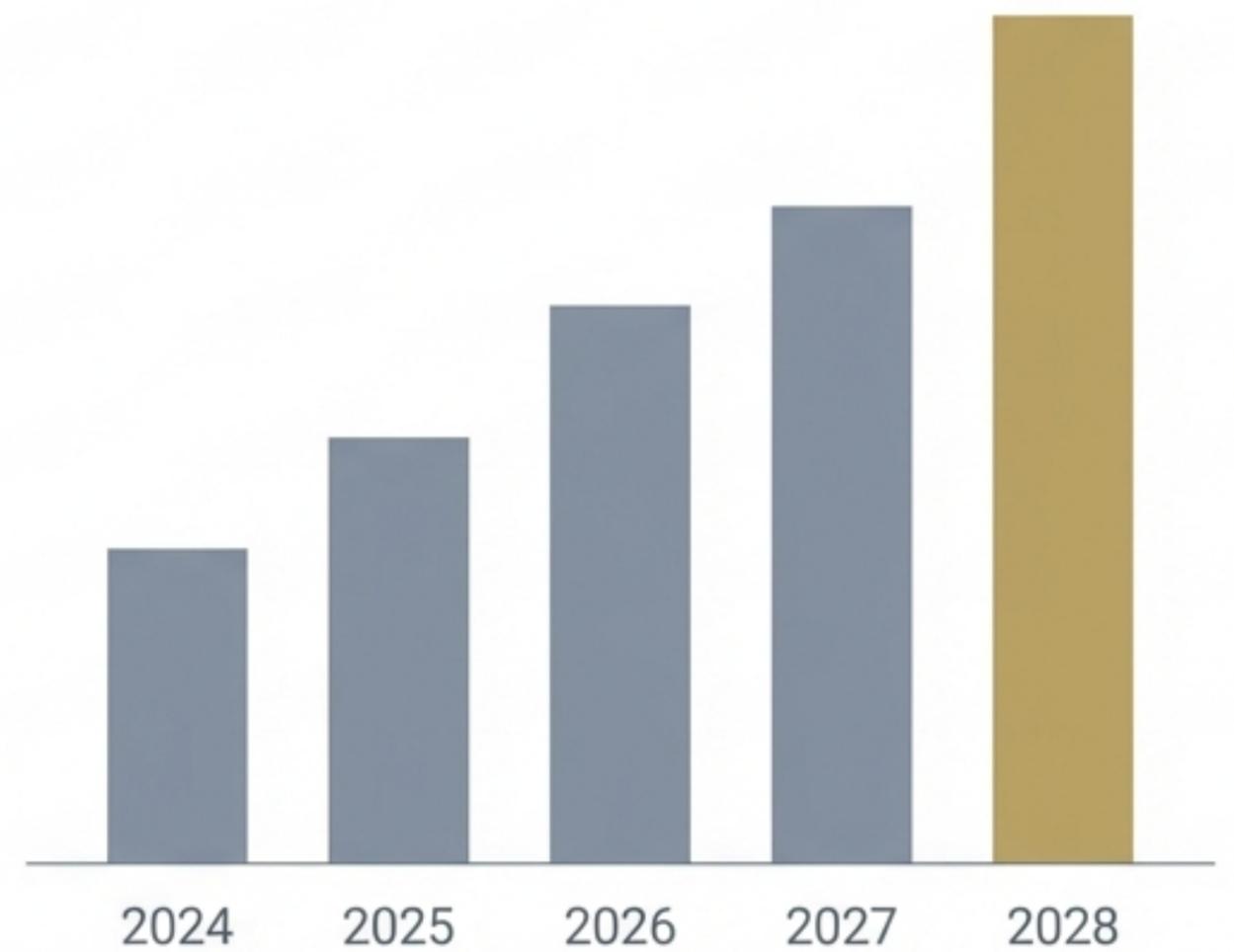
4兆1,873億円

(2029年予測 / CAGR 25.6%)



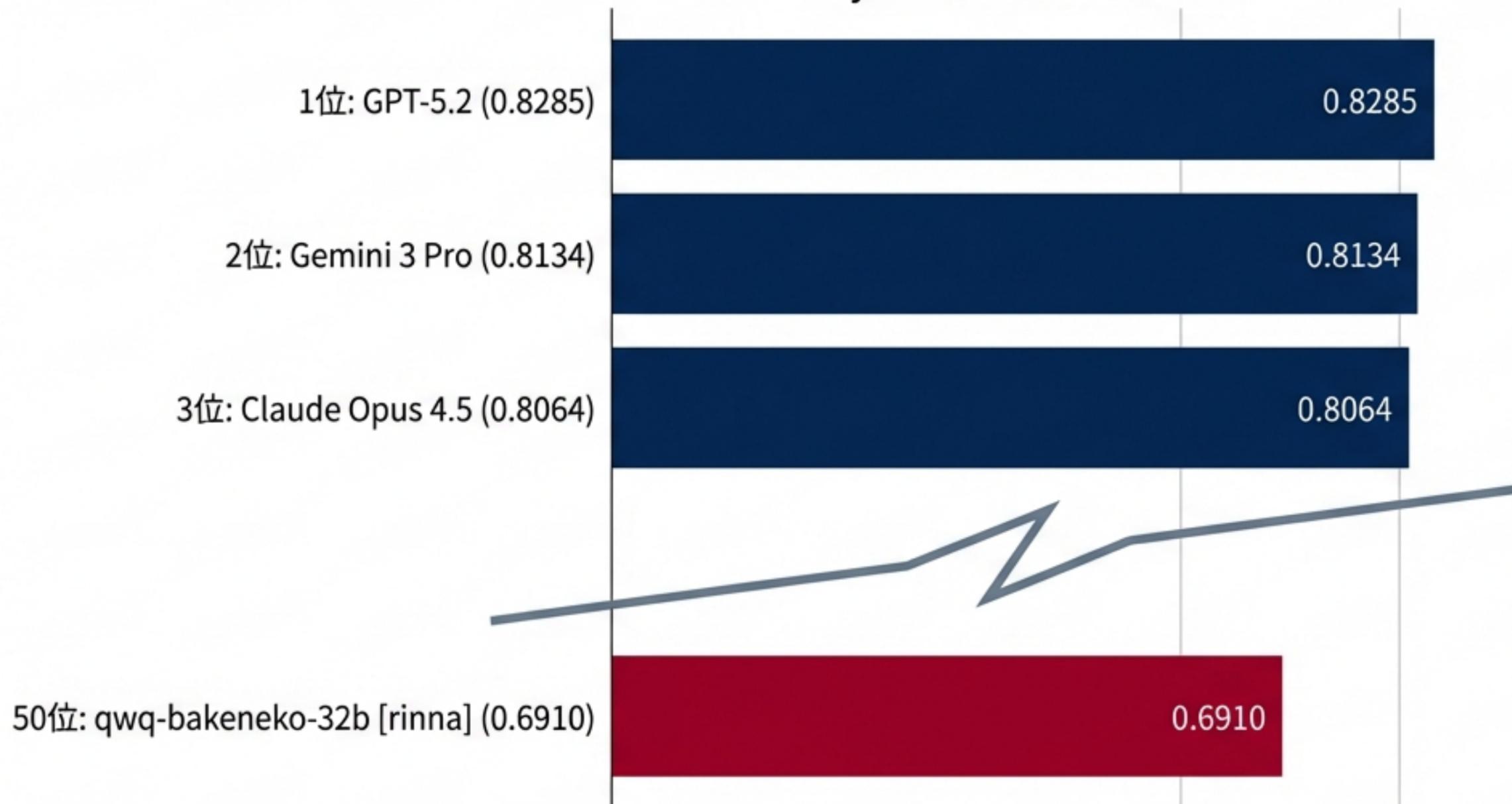
8,028億円

(2028年予測)



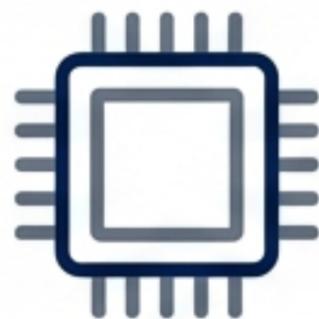
グローバル巨大モデルが圧倒する「絶対性能」の現実

Nejumi Leaderboard 4



上位陣との差は約0.13ポイント。汎用タスクにおける性能差は歴然。

国産LLMの進化：2つの明確な生存戦略



軽量高性能路線

1 GPU (H100) で推論可能

NTT tsuzumi 2 (300億パラメータ)

PFN PLaMo 2.2 Prime

FP技能検定2級にわずか200問の追加学習で到達 (Gemmaの10倍の効率)



大規模化路線

1,000億~7,000億パラメータ

楽天 Rakuten AI 3.0 (7,000億/MoE)

SB Intuitions Sarashina (4,600億)

国内最大の7,000億パラメータモデルが2026年春にオープン化予定

2026年 主要国産LLM プレイヤーマップ

企業・モデル名	パラメータ規模	開発アプローチ	提供形態
NTT (tsuzumi 2)	300億	フルスクラッチ	プロプライエタリ
PFN (PLaMo 2.2 Prime)	8B・31B	フルスクラッチ	条件付き商用可
NEC (cotomi v3)	非公開 (128Kコンテキスト)	独自開発	プロプライエタリ
富士通 (Takane)	推定1,000億級	Cohere共同開発	プロプライエタリ
SB Intuitions (Sarashina)	4,600億	フルスクラッチ	API提供
楽天 (Rakuten AI 3.0)	7,000億(MoE)	GENIAC支援	2026春公開予定
Stockmark (Stockmark-2-100B)	1,000億	フルスクラッチ	MIT (オープン)

性能差を覆す、国産LLM「4つの導入決定要因」



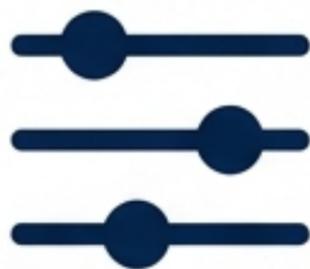
1. データ主権とセキュリティ

機密データを国外に出さないオンプレミス/閉域環境での完全コントロール



2. 圧倒的なコスト効率

API従量課金を脱却。約500万円のハードウェア(1 GPU)で自社稼働



3. 業界特化のカスタマイズ性

少量データによる柔軟なファインチューニングとドメイン適応



4. 法的透明性と著作権回避

フルスクラッチ開発による学習データの完全把握と権利クリアランス

行政・自治体が牽引する国産モデルの社会実装

相模原市×
NEC (cotomi)



全国初の本格導入。過去5年分の議会答弁データを学習し、答弁案を自動作成。

全国150自治体×
PFN (PLaMo)



自治体向けプラットフォーム「QommonsAI」に標準搭載。2025年内に800自治体へ拡大予定。

デジタル庁
「ガバメントAI (源内)」



10万人規模の政府職員向け展開を見据え、PFNの「PLaMo翻訳」を導入。国産LLMの公募を本格化。

金融・インフラ・医療へ波及する特化型LLM

金融・保険

みずほFG × 富士通
(Takane)

PFN 金融特化モデル
(PLaMo-Fin-Prime)

NTTデータ
保険業界特化モデルPoC

電力・インフラ

中国電力 × NTT
(tsuzumi 2)
- 業務特化型LLM構築

医療・製薬

中外製薬 × SB Intuitions
(Sarashina)
- 臨床開発AIエージェント

MM総研調査「導入・検討企業の約90%が国産LLMに期待」

国家戦略としての「1兆円」支援体制

国産AIエコシステム

法整備

「AI新法」2025年9月全面施行。内閣AI戦略本部の設置と「世界で最もAIを開発しやすい国」への基本計画。

資金支援

経産省による5年間・約1兆円規模の公的支援。令和8年度予算案でのAI・半導体関連1.2兆円計上。

計算資源

産総研「ABCI 3.0」(H200 GPU 6,128基稼働) および GENIAC第3期による24の開発プロジェクト採択。

シェア拡大を阻む3つの構造的課題



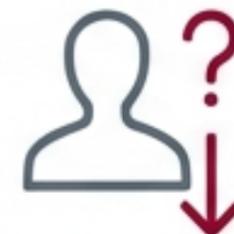
1. 投資規模の圧倒的格差

グローバルメガテックの数兆円規模の投資に対する、国内資本の限界。



2. 日本語学習データの枯渇

高品質な日本語コーパスの絶対的な不足と収集の限界。



3. AIトップタレントの不足

基盤モデルをスクラッチ開発できる高度エンジニアの世界的争奪戦における苦戦。

2026年：国産LLMエコシステム「正念場の年」

楽天 Rakuten AI 3.0
(7,000億パラメータ) の
オープンモデル公開

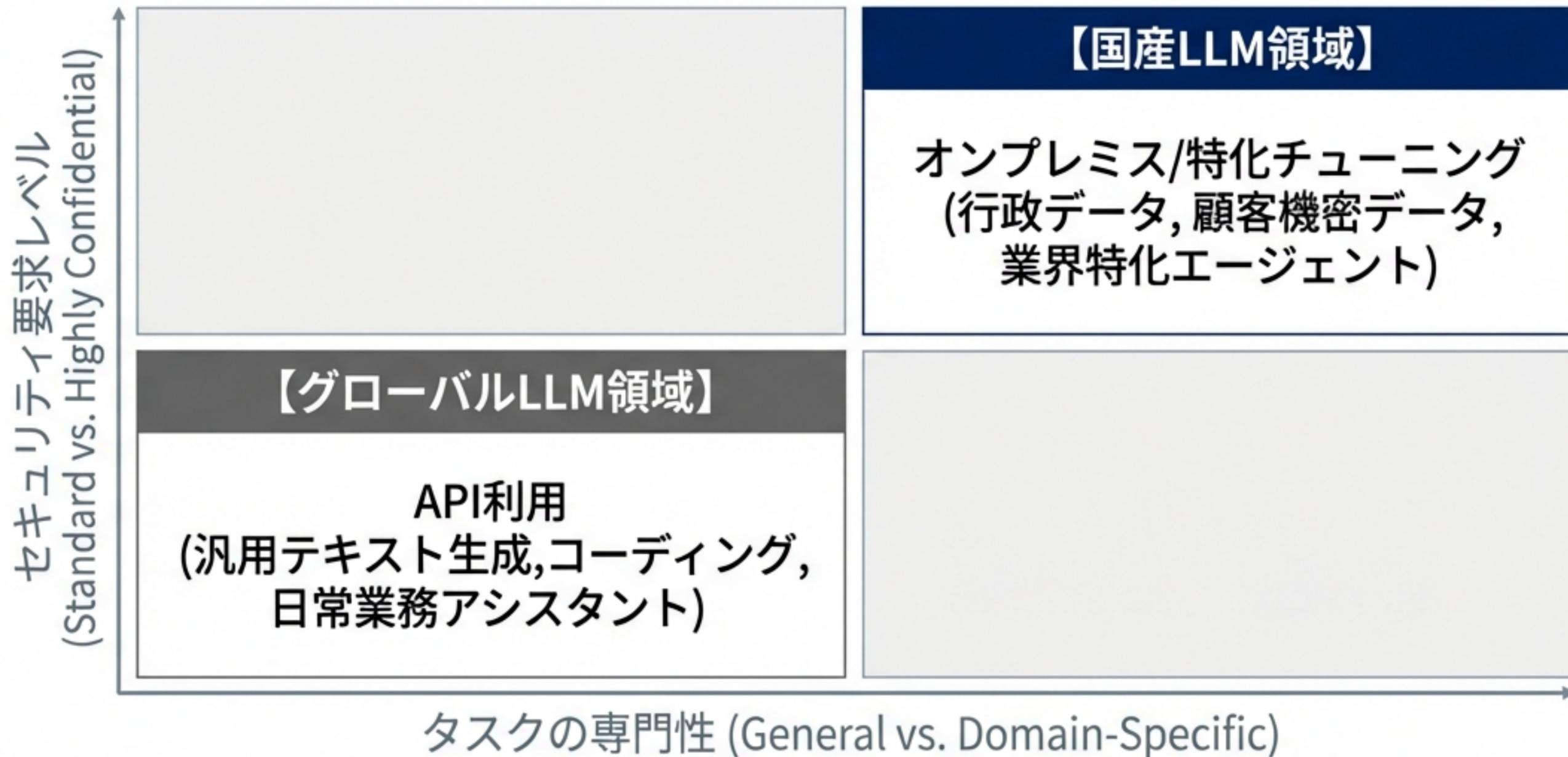
NTT tsuzumi 受注の爆発的成長
(年間1,500億円ペース)

ホーム
グラウンドでの
直接対決が
開始。

ソフトバンクとOpenAIの合併会社
「SB OAI Japan」の本格稼働

Anthropic 東京オフィス開設によ
る日本市場攻勢の激化

結論：「ハイブリッド共存戦略」による最適解の設計



「単一モデルへの依存を脱却し、用途・コスト・リスクに応じたLLMの
適材適所なポートフォリオ構築が2026年の必須要件となる。」